

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0373000694
法人名	社会福祉法人 普代福祉会
事業所名	認知症高齢者グループホームとりい
所在地	岩手県下閉伊郡普代村第24地割字鳥居5番地1 (電話) 0194-36-1870

評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団		
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19番1号		
訪問調査日	平成19年9月28日	評価確定日	平成19年11月8日

【情報提供票より】(平成19年 9月 3日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15年 12月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	10 人 常勤 8,5人, 兼務 0,1 人, 常勤換算 8,6人

(2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート平屋建造り		
	1 階建ての	階 ~	階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	12,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		800 円

(4)利用者の概要(9月 3日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名
要介護1	1名	要介護2	3名		
要介護3	4名	要介護4	0名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 82,4歳	最低	73歳	最高	97歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	普代村国保医科歯科診療所
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>規模的に小さい市町村で、ほとんどの介護施設がまとまった形で管理者は兼務をしている状況があり、グループホームの独自性に薄いところがある。しかし、事業所の理念にも謳われている(介護の)プロとしての自信や、入居者や家族の方々の信頼に応えるべく、日々取り組んでいる一生懸命な姿が見える事業所である。</p>
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>地域との連携については立地条件等大変であるが、地区の消防団を巻き込んでの夜間の避難訓練等がなされていた。今後はなかなか知られていないグループホームを住民に広報等を利用したり、積極的に働きかけることにより理解を深める。管理者と職員の労働条件の関係処遇改善の取り組み等において成果が見られる。</p>
	<p>① 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>記録等はきちんとされており全職員が必ず目を通すことを徹底されている。新しく入居された方にはなれるまで担当者を替えないようにするなど全職員で納得のうえで対応している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は昨年後半2月に1回の開催をしていたが、その後、会議の内容等前回と同じになってしまいがちで、忙しい推進委員に集まって貰うことについても遠慮があり、検討中であるが、委員のメンバーの構成(教育関係、施設近隣の住民関係者等)も見直しをし、地域の中で存在感のあるグループホームを目指し、運営推進会議も充実していけるよう努力をしていく。</p>
	<p>③ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族アンケートによる家族からの意見収集はしていない。苦情等についても、これまでは出ていない。今後は、家族からの意見等を出してもらえるように、ボランティア等を介してなど意見や多くの情報収集を行っていきたい。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>グループホームおよび関連施設が、人里はなれたところにあり地域との連携を考えていくことが難しい。唯一、夏祭りのとき参加することと、買物に出掛けたり、村の行事見学に出来るだけ行くように計画をしている。地域の老人クラブや子供会活動との交流を考えていく。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開所当初からの理念に基づきサービスを行っており、他施設との連携を保つ内容にもなっている。	○	民家から離れた場所で複合施設の中での事業所独自のものは難しい面もあるが、グループホームについて地域に理解して貰うことからはじめていき地域とともに歩んでいくための理念を考えていくことが必要と感じられる。小・中学校との交流や事業所のPRを行っていくことに期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者には安全・安心・安穏とした生活が送れるよう職員は常に介護のプロとして未熟・過信・甘えの気持ちを持たないよう、どこから見ても安心感を持たれるよう常に意識した行動を取っている。		
ど					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会等の加入はないが地域行事には、常に参加し地元の人々との交流は開所当初からしている。地域的な立地条件もあり、頻繁な交流は難しいが事業所の内容等は村の中でPRに努め、諦めず交流の糸口は探していきたい。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	研修会への参加やマニュアルを作成し、誰でも対応出来るサービスの向上や職員の処遇改善がされている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催意義で方向性を模索中である。今後、委員メンバー等再検討し、地域の中に入れる、そしてサービス向上を目指した会議をしていきたい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>複合施設の形態の中で、村の外向職員もいることと、一村一施設で連携は取れている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族への報告は定期的ではないが、問合せがあった都度 報告している。ホームの広報紙を報告としている。</p>	○	<p>家族からの要望もめったにないが必要に応じ行っている。これからは会報のような形でホームでの生活をお知らせしていく取り組みを望みたい。</p>
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>今までは特になかったので対応することもなかった。</p>	○	<p>意見や苦情、不満が出ていなくても、家族の意見等を聞くための取り組みは必要であると考え。家族アンケート等行っていないので、是非「家族アンケート」の実施をして欲しい。</p>
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>法人内の人事異動は事業所の意見や要望は、取り入れられないが、今までは利用者への影響はあまりない。現状では、利用者はとても馴染み職員とよい関係が築かれている。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>できる限り、研修には参加させると共に伝講や復命書の回覧をし、内容の共有をするようにしている。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>県主催や各ブロックの定例会には必ず参加し、情報交換を行っている。また、復命により事業所内でも共有している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の見学や、職員が自宅を家庭訪問したりし、顔なじみになり、事業所の雰囲気慣れてもらってから利用になっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	畑仕事等、得意な方が多いので教えて貰いながら野菜を育て、一緒に手入れをし収穫後は自分たちの食卓にも出される。食事も昔の食べ物を教わりながら作る等、先人の知恵を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族の申し送りを守るようにし、特に日課を決めないで本人のしたいようにしている。カンファレンスをしっかりし、アセスメントシートもきちんと記入されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月のサービス担当者会議、カンファレンスを行いながら、担当者は利用者の状況を把握し、その人らしい生活ができるよう介護計画を立てている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は6ヵ月に一回ずつ行うが変化のある入居者に関しては受診により入院になっていて対応の例がないし、今後も無いと思う。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	複合施設形態の中でのグループホームなので、多機能性の支援は考えていない。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	村の診療所による居宅療養管理指導と本人及び家族の希望で専門科への通院もしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期になると入院となるので、もし退院となった場合は家族等の希望により相談を受ける。同じエリアの施設との話し合いで、終末期は家族の希望があれば対応出来る。かかりつけ医との十分な協議があり共有出来ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	毎月のサービス担当者会議や出張報告会等で勉強会をして確保に最善を尽くしている。声かけや接遇もよく、一人ひとりの誇りを大切にする様子も窺え、個人情報記載の記録物等その他書類の保管にも十分配慮されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	笑顔で利用者のペースに合わせている様子が窺えた。介護計画は個々のペースを大切に立てられている。常に本人の希望を優先させるよう心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の自主性に任せているので、一緒に片付けの出来る人は少ないが何人かは食器を下げている方もいる。食べる場所は、指定席になっていて、それがその人の落ち着きであり、楽しみのものであった。また、ゆっくり楽しく食べることを重視し、カロリー計算はしていないが、栄養士からの点検を受けている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望がでるといことがなく、ほとんど職員サイドで時間は決められてるが問題は生じていない。朝のバイタルチェック記録をもとに入浴時にもチェックし、ケアプランに記録している。こまめに観察しているので、入浴可否判定基準については特別、考えていない。		
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家族から趣味を聞いたり、話題の中から生育歴等を聞き、話の相手をする時に盛り上げたり、また買い物と一緒に出かけるととても喜ばれる。時々、ホームの外に出ることは刺激にもなり、気晴らしにもなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ほとんど希望が出ないが、天気がいい日はごみ捨て散歩を全員でし、併施設内を一周することもある。夏場は村内の行事やふるさと訪問、買い物等にも出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	正面がタッチの自動ドアであるが、利用者が外から入る時に開けやすいように、普段は手動で利用している。居室はもちろん、全部鍵はかけないが、たとえ知らない間に、外に出ても他施設等からの見守り連携が出来る。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昨年、鳥居地区と消防団に協力して貰い、夜間避難訓練を実施しているが今後も継続実施していくよう希望している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調悪いときの水分、食事摂取状況の記録はするが普通時はしていない。栄養士は献立の点検のみだが、ホームの介護者が常に観察し対応している。	○	見慣れているという安心感がチェックは体調不良のときだけということであったが、食事の残量・水分摂取量の記録は健康チェックには必要と思われるので、今後はチェックを望みたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前は、玄関周りなど花好きの人が、鉢植えで飾っていたが、それが嫌いな人もいたりして、今はさり気ない感じで程よい飾り付けがされている。共有部分も一人でも誰かと一緒にゆったり過ごせる環境である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	同意の取れた利用者の案内で居室を見せていただいたが、きちんと整理され、布団も片付けてあり、こたつを置いたりして、居ごち良い環境の工夫の支援が感じられた。		